

地域医療連携室だより

～ 第 6 号 ～

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室 室長 挨拶

連日厳しい暑さが続いておりますが、貴院におかれましては益々御盛栄のこととお喜び申し上げます。

今回の「地域医療連携だより」では、薬剤部と中央臨床検査部の紹介、消化器内科によるC型慢性肝炎に対する IFN フリー経口治療の成績および呼吸器内科による睡眠時無呼吸症候群に対する診療について掲載させていただきます。今後の掲載内容について御意見・御要望がございましたら、地域医療連携室まで連絡いただければ幸いです。

当院では、従来の土曜日、日曜日の内科系 2 次救急対応に加えて、7 月より平日時間内の内科系 2 次救急対応を開始いたしました。また、地域の先生方からの診察・検査および入院依頼につきましては、これまで通り迅速な対応を心がけて継続させていただいております。このことが地域全体でより効率的な医療を提供できる連携強化につながればと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長 兼 地域医療連携室 室長
倉井 修

C型慢性肝炎に対するインターフェロンフリー治療成績について

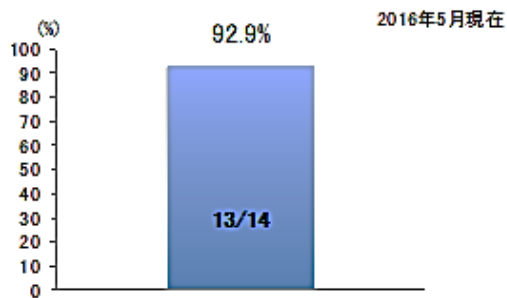
2014年にC型慢性肝炎および代償性肝硬変に対して、インターフェロン(IFN)フリーの経口薬のみによる治療が可能となり、高齢者および様々な合併症を有する患者においても安全に治療を行うことができるようになりました。C型肝炎治療ガイドラインにおいて、IFNフリー治療が第1選択とされており、セログループ1についてはハーボニー®配合錠、ダクルインザ®+スンベプラ®併用療法およびヴィキラックス®配合錠が保険適用となっております。またセログループ2についてはソバルディ®+リバビリン併用療法が保険適用となっており、いずれも医療費助成制度の対象です。

当院ではIFNフリー治療を積極的に導入しており、2016年5月までに計101名の患者に対して治療を行っています。患者の平均年齢は68歳であり、最高齢は83歳でしたが、いずれも重篤な副作用を生じることなく治療を完遂することができました。また図に示す通り、良好な治療成績が認められています。発癌のリスクの高い高齢者においては、できるだけ早期に抗ウイルス療法を行うことが必要であり、積極的にIFNフリー治療を導入していただくことが望ましいと考えます。

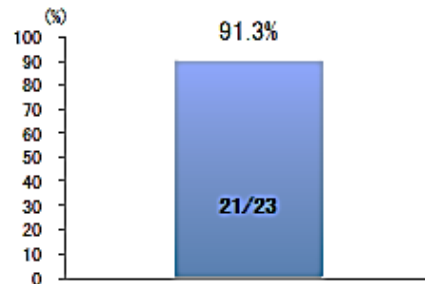
適応のある患者さんがおられましたら、ぜひご紹介ください。

<セログループ1>

ハーボニー®配合錠治療によるSVR12達成率

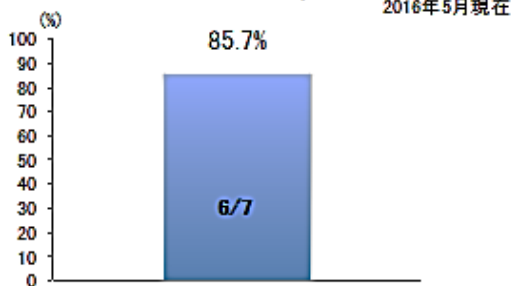


ダクルインザ®+スンペプラ®併用療法によるSVR12達成率



<セログループ2>

ソバルディ®+リバピリン併用療法によるSVR12達成率



睡眠評価装置 ウォッチパット

当院では2016年4月より、睡眠呼吸障害の検査装置として、PHILIPS社のウォッチパットを導入しました。ウォッチパットは自宅で検査可能な簡易ポリソムノグラフィー検査です。ウォッチパットは、UPATプローブと呼ばれる指先に装着するセンサーと、胸部に貼付する、いびき体位センサーの2つのセンサーにより終夜検査を行います。これらのセンサーより得られた信号を、独自に開発されたアルゴリズムで睡眠呼吸障害の診断に必要な情報に変換し、脳波を使用せずに睡眠、覚醒を識別でき、また、鼻カニューラを使用せずに無呼吸を識別することができます。各センサーの信号は本体内部のデータメモリに記録され、専用の解析ソフトウェアでダウンロードを行うことができます。解析ソフトウェアでは、無呼吸低呼吸指数(AHI)に加え、覚醒・睡眠(軽睡眠・深睡眠・REM睡眠)、いびきの有無、体位別(上向き・横向き)の無呼吸低呼吸指数、血中の酸素飽和度の状態、および心拍数等のパラメーターが表示・レポート化され、診断に必要な情報が提供されます。ただし、AHIが20~40の境界域症例は、従来どおり入院でのFull PSG検査を行っています。

ウォッチパット検査は健康保険が適応になっております。費用は3割の自己負担の場合で3000円程度です。検査方法は、検査機器を自宅に持ち帰って1晩装着し、次の日に医療機関に返却して頂きます。当院では、機器の空きがあれば、ご紹介いただいた当日に検査機器を持ち帰り、当日夜に検査、おおよそ1週間後に結果報告としております。「24時間社会」と呼ばれる今日、睡眠に対する慢性的な問題を持っている現代人は増え続け、日本を含めた数カ国のデータでは睡眠呼吸障害患者の割合は男性の2割、女性の1割程度存在するといわれ、単純によく眠れたか、

眠れないかの問題に留まらないことが最近明らかになってきています。患者さんで、いびき、日中の過度の眠け、夜間頻尿などの自覚症状の方がいらっしゃいましたら、是非、当院 呼吸器内科に御紹介ください。当院で診断、治療方針決定後は、改めて御紹介させて頂き、引き続き紹介医の先生方に診て頂きたいと考えております。今後ともどうか宜しくお願い致します。



〈薬剤部のご紹介〉

当院の薬剤部は、薬剤師 10 名(本務8名、非常勤2名)と非常勤の補助職員で業務を行なっています。

調剤業務: 当院は院外処方箋を発行しており、27 年度でその発行率は 92%、1 日平均約 265 枚でした。処方箋の疑義照会は薬剤部が FAX にて受け付けて、院内の取り決めにより薬剤部で回答できるものは処方医を煩わすことなく薬剤部で回答しています。28 年度からは一般名処方加算1のために薬品名を一般名にしており、保険薬局様にご迷惑をおかけしています。入院処方箋は 27 年度で 1 日平均 117 枚でした。入院調剤は、調剤支援システムを利用しています。電子カルテの処方箋の情報を自動解析し、薬袋発行、錠剤自動分包器、散薬・水薬鑑査システム、散薬分包器、薬品情報発行システムに送ることにより、人為ミス減らすようにしています。

注射薬業務: 注射薬は土・日曜日も含めて翌日使用分を 16 時に締め切って、ピックアップマシンを利用して施用ごとに個人セットしています。また、平日は朝と夕に各病棟で担当薬剤師が配合変化等をチェックしながらミキシングを行っています。

無菌製剤業務: 高カロリー輸液の無菌調整は土・日曜日を含めて当日夜使用分からの調製をしています。化学療法に関しては、レジメンの審査、承認から関わっており、その登録管理をしています。調製は無菌室の安全キャビネットを使用して、外来、入院の全ての抗癌剤を調製しています。調製前には化学療法管理システムを使用してチェックを行い、安全で適切な化学療法が行えるように努めています。

病棟薬剤業務、服薬指導業務: 全病棟に担当薬剤師を配置し、薬物療法の有効性、安全性の向上に努めています。持参薬については、患者さんに聞き取りを行い、鑑別結果を持参薬オーダとして入力し、当院採用薬を薬剤コメントに入力するなど安全で効率的な運用に努めています。今年度は退院時服薬指導に力をいれて退院後の薬の安全使用にも貢献したいと考えています。また、栄養サポートチーム、感染制御チーム、糖尿病ケアチーム、緩和ケアチーム、肝臓病教室、転倒・転落防止ラウンド等に参加し、専門性を生かした業務を行っています。

DI 業務: 医師、看護師などからの質問の回答、医薬品安全性情報の管理、病棟薬剤業務への支援、スタッフ教育、薬品マスタメンテナンス等を行っています。

教育: 認定実務実習指導者 4 名を有しており、薬学 6 年制実習生を受け入れています。薬物治療の実践に参加・体験してもらうことにより臨床対応能力の習得に貢献しています。

その他、製剤、薬品在庫管理など多くの業務をこなしています。

院内の業務が主ですが、化学療法患者さんの同意を得たうえで、保険薬局との薬剤情報提供連携やお薬手帳を通じての入院時の薬剤情報提供などを積極的に進めていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

〈中央臨床検査部のご紹介〉

当院では、検体検査及び生理機能検査全般を実施しています。オーダーリングシステムを導入することにより検体検査でのバーコード管理を行い安全で迅速な検査を実施するとともに、大阪市立総合医療センターとのスムーズな連携が可能となっています。また、夜間・休日の緊急検査にも臨床検査技師が 24 時間 365 日対応しています。

〈検体検査〉

院内では緊急度の高い検査(血算、生化学、凝固、尿一般など)を正確・迅速に分析し報告しており、診察前の緊急検査は、到着後 30 分で報告するよう取り組んでいます。特殊な分析装置が必要となる、腫瘍マーカー、ホルモン、血中薬物濃度などの項目については大阪市立総合医療センターと連携して 1 日 3 回の定期搬送により可能な限り迅速な結果報告ができる体制をとっています。

〈微生物検査〉

当院は結核病棟を有しており、市民病院の抗酸菌検査は全て当院に集約し実施しています。塗抹鏡検、培養検査(液体・固形)、薬剤感受性検査はもちろん TaqMan-PCR を導入し早期診断に努めています。一般細菌検査については大阪市立総合医療センターへ集約して実施しています。

〈輸血関連検査〉

自動輸血検査装置を導入し、血液型、交叉適合試験を実施しています。また、輸血用血液製剤の保管管理や輸血履歴管理も行っており、安心して安全な輸血療法が可能となっています。

〈生理機能検査〉

随時検査として、安静心電図、呼吸機能、脈波、体成分分析を行っています。予約検査としては、ホルター心電図、安静時基礎代謝、脳波、終夜睡眠時無呼吸検査などを行っており、超音波検査は心臓・腹部・体表検査について技師がスクリーニング検査を実施しています。

また、女性外来の体表超音波検査には女性技師が対応しています。

〈病理検査〉

術中迅速検査は大阪市立総合医療センターと連携しています。その他は外部委託しています。

第8回 十三市民病院 糖尿病フェスタ

テーマ: **筋肉力** ~ 筋肉のイガイな力 ~

★日時: 平成28年11月11日(金) 14:00~16:00

☆場所: 大阪市立十三市民病院

★費用: 無料

☆申込: 不要



編集

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室

〒532-0034

大阪市淀川区野中北 2-12-27

代表電話: 06-6150-8000

直通電話: 06-6150-8067

直通FAX: 06-6150-8686